小須戸公民館報

発行所 小須戸町中央公民館
発行人 岡 謙吾
発行日 毎月15日

ボランティア活動をすすめる為に

―「してあげる」のではなく、「させてもらう」―

七月十三日、小須戸町中央公民館において三市中蒲原郡公民館大会が開かれました。
今年度のテーマは、「公民館におけるボランティア活動。」この機会を通じ、ボランティア活動についてを考えてみたいと思います。

テーマ「公民館におけるボランティア活動」
体験発表 ＝小須戸町・阿部康弘さん＝

福祉活動をテーマにした全国規模の論文大会で当町の横山あすかさん（天ヶ沢二）が特別優秀賞に選ばれた論文の一部を紹介します。

「私の魅力的な体験」

――略――

『人はみんな、生きる権利を持っています。その一人ひとりの権利が正しく守られるためにはどうしたら良いか、人間どうし共に学び合い、行動して行く事が大切です。〝誰かのため〟という一方通行から、〝共に歩む〟という発想をもって行動する事がこれからは必要だと思います。

手話で、ボランティアは以前まで〝奉仕〟という意味で、〝苦労をあげる〟と表していました。でもこんな表現方法はありと思いますか？ もし自分がボランティアされる側で、「あなたに私は苦労をあげているのだから」と、そんな気持ちでボランティアされて嬉しいでしょうか？ きっと嫌な気分になると私は思います。今の手話は、ボランティアは〝共に歩む〟と表します。私はこの表現は、以前より何十倍も良くなったと思います。

――略――

ボランティアは本当に楽しく多くの魅力的な体験を味わうことが出来ます。誰にでも気軽に出来る事で、決して特別なものではありません。一人でも多くの人がもっとボランティア活動に理解を示し、気軽に参加してほしいです。こんな魅力的な体験をもっと多くの人達に感じてほしい、これが私の願いです。』

ボランティア活動の推進

（樋浦忠吉先生の講演より）

ボランティア活動というものは、「人間愛」「人間尊重」が源流になっています。

阪神大震災の時の状況を見てみますと、約百三万人の方がボランティア活動に参加されました。大別すると……

○個人のボランティア活動
○ボランティア団体として、取り組んだ活動
○NGO（非政府国際協力団）活動

これからの公民館活動を全員で考えました。

今回の大震災で、しみじみと考えさせられたことは、ボランティア活動の基本は、社会を良くするために、自分の時間と技術を自発的に無報酬で提供すること、加えて、他人に良い影響を与えて同時に自分も成長する。自他共存の考え方が基本だと考えます。

日本人は、人のお世話になることは申し訳ないという昔からの考え方が強いようです。

ですから、「手を貸してください。」と言うことは言いにくい訳です。そういうことを考えてくると、気楽に「お願いします。」と言えるようになるには、受けてもいいんだというムードを色々な機会（例えば町内会等）を通して啓発することです。

家庭・学校・職場・地域での諸活動・こういう活動を公民館などで啓発しながら、堀り起こしが可能であります。

（地域で実践している ボランティア活動の実例）

★小須戸町 「手話教室」
現在の会員は、三十一名です。中には、ろうあ者の方も入っておられます。私たちの会話を手話でどう表現するか実際とまどうことも多くありますが、参加者一人ひとりが「人から教えてもらうのではなく、自分から積極的に学ぶ」という気持ちでがんばっています。

★村松町 「読み聞かせボランティア…あじさいの会」
みんなの為に役立つことになればということで、公民館事業として取り組みました。

対象は、小学生低学年の児童と親ということでスタートし、子供たちの参加も定着しています。

これからも、苦い人たちから入っていただいて私たちと一緒に研修をしながら、無理をせず活動を続けていくつもりです。

★亀田町 「ポッポの会の活動」
私たちの会員の多くは、婦人学級の仲間たちのグループです。

会員の中で知的障害者の通っている施設にお手伝いに行っておられる方がいて、私たちも何か喜んでもらえることをしたいと考え、家族の味を生かした食事と手づくりお菓子を届けることにしました。大変喜んでいただきました。女性の果たすボランティアの役割りは重要であるとつくづく感じている今日です。

以上のように、皆さんは、地域の人たちを愛しています。大事にしているからこそ、実践・行動に移される訳です。

活動を進めていくうえで

（樋浦忠吉先生の講演より）

どのような配慮が必要かと考えてみますと、

※温める「間」を大切に
どんなものでも熟していくには時間が必要です。あせらずにじっくりと待ってやるという、その暖かい気持ちで待つことを大事にしてください。

※自分を知り、相手を知る
優しさが大切です。相手を知ることによって、何を求めているかということをわからなければなりません。

※自らも実践者として生きる
自らの意志で、どんな小さなことでも、継続的に活動する。心を込めて、相手を見れば本当によく見えます。

※「してやる」「めぐんでやる」ではなく、「させてもらう」を基本に！
二度とない人生を楽しく、共に生きることによって成長していきます。

これからのみなさんの指導に期待したいと思います。

社会教育法第二十条に、「公民館は地域住民のため各種の事業を行い、住民の教養の向上・健康の増進・生活文化の振興・社会福祉の増進に寄与することを目的とする。」とあります。

公民館活動を通して、地域のみなさんとの絆を深める意味でもボランティア活動を推進していこうではありませんか。

ちょこっと一言 (89)

「思い出のロッキングチェアー」

文京町一ノ三 **清野静香さん**

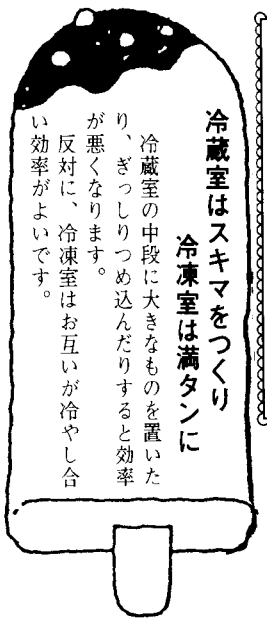
先日、矢代田にある私の実家に帰った時、とても懐かしい物を見つけました。私が子供の時に買ってもらったロッキングチェアーです。「うわーっ懐かしい!! とっておいてくれたの？」と聞くと、「親せきの家からもらってきたんだ。」と父が言いました。

そうです。このロッキングチェアーは、私が使い、妹、弟、そして従妹まで、めぐり巡って今度は娘へと返ってきたのです。

今の時代、何でも新しい物を買い与え、もちろん私もそうしてきたけど、私が使った物を娘が使うことに感激しました。

最後に、これを買ってくれた両親、大切に使ってくれたみんなに感謝したいと思います。

読んでトクする豆知識



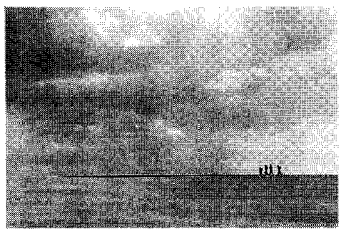
冷蔵室はスキマをつくり 冷凍室は満タンに

冷蔵室の中段に大きなものを置いたり、ぎっしりつめ込んだりすると効率が悪くなります。

反対に、冷凍室はお互いが冷やし合い効率がよいです。

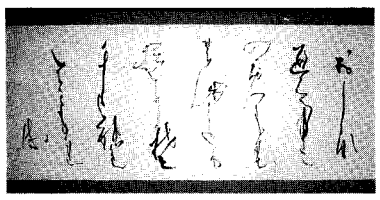
第五十回 県展入選作品 (3)

「春近き雪原にて」



本町4
斉藤登市さん

長い冬から春を待つ気持ちを表現しました。



中央町1
「新古今和歌集より」 竹石千鶴子さん

心技一如の変化が醸し出す不思議な芸の世界。
書作の楽しみが倍加するよう追求していきたい。

本町1
「人 形」 風間源一郎さん

佐渡外海府の賽の河原で撮った作品です。

バドミントンスポ少 下越地区大会成績

〈小学生〉
★女子団体の部 三位
★男子個人戦（シングルス）
二位 髙野善康（蔵町三）
五位 鈴木浩彰（水田）
★女子個人戦（シングルス）
一位 原美貴子（文京町一ノ一）
二位 藤田涼子（諏訪町一）
★女子個人戦（ダブルス）
二位 川村朋子（若葉町三）中村梨沙（矢代田十三）組
〈中学生〉
★男子個人戦（シングルス）
藤田貴夫（新町一）
★女子個人戦（シングルス）
西村あゆみ（文京町一ノ二）

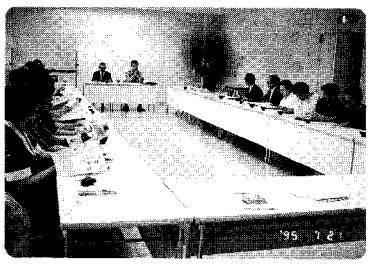
以上県大会へ出場

小須戸町文化協会 リーダー交流会
「いやあ～すげかったね～」

今年度は七月二十一日(金)に岩船郡朝日村の総合文化会館を各団体のリーダー総勢十六名で視察に行って参りました。

なぜ今回、マイクロバスで片道二時間半もかかる朝日村を研修地として選んだかというと一番の大きな目玉として、二年前に二十三億余の巨費を投じて建設されたという総合文化会館の見学でした。その全容は、約六百席の固定席をもち照明、音響等に最新の設備を施した文化ホール、全ての村民が集い、学び、ふれあいの場として活用できる公民館。加えて知識を蓄え、想像の楽しさに触れる場所、図書館と二つの機能をあわせもった利用者の身になって考えてある会館でした。

次に朝日村の文化協会について話します。昨年五月に三十一団体約七百四十人の会員で発足された、生まれたての文化協会なのですが同協会の設立一周年を機会に「文芸あさひ」を創刊することや老人ホーム等への慰問活動を実施しており、協会から慰問活動一回につき三千円の助成金を出すこと、更に事業の極みとして岩船郡の町村を挙げて合同の文化協会のイベントを計画中という、その活動力は留まることを知らない勢いとエネルギーをひしひしと感じました。


熱心に説明を聞くリーダーの皆さん

7月のナイスショット

14日　乳児家庭教育学級「つくしんぼ」
花積先生から「子育て」のアドバイスをうけました。

14日　おもしも雑学講座
郵便局の今昔についてのお話しを聞きました。

18日　花いっぱい教室
梅雨期の園芸作業や、さし木についてを学習しました。

横水分館 運動会大盛況

七月十六日(日)町民体育館で四分館のトップを切り、横水分館運動会が開かれました。

当日は、二百五十名の参加者が集い、会場内は熱気に包まれ「がんばれ！負けんな！」の声援が飛び交い活気に溢れた運動会でした。

一位　横川浜チーム
二位　水田チーム
三位　小向チーム
四位　文京町チーム

「となりに負けるなー！」

楽しむ会案内

九月のおもしろ雑学講座
「遺言(ゆいごん)について」

日時　九月八日(金)
午後七時三十分から九時
会場　中央公民館二階会議室
お話　堀川益二さん
(小須戸町教育委員)

第十三回 町民俳句大会作品募集

対象　町民及び当町通勤通学者
投期　当期雑詠(未発表)で、三句一組限りとする。
締切　九月十六日(土)厳守。
投句先　中央公民館及び投句箱
投句箱設置場所
中央公民館・矢代田駅・福祉センター
投句用紙　投句箱備えつけ用紙又は、同形のもの
(注)住所・氏名(雅号)は正確にみなさんからの応募をお待ちしています。
選考　町在住各俳句会同人十名の合点による
発表　十一月三日からの文化祭会場及び発表紙(有料)
表彰　町長賞・議会議長賞・教育長賞・中央公民館長賞他
主催　小須戸町俳句同好会
後援　文化協会・中央公民館

お知らせ

第五回町民親善ゴルフ大会は十月二日(月)に決定いたしました。

分館楽しむ会案内

【横水分館】
横水分館野球大会
日時　八月二十日(日)
午後四時開会予定
会場　スポーツ公園野球場

「会員を募集します」

◆鳥凧クラブ
広い空に舞い上がり、悠々と飛ぶ鳥凧をつくってみませんか。どうぞお気軽に。
活動日　第一・三・四水曜日
午後七時より九時三十分
会場　中央公民館
会費　月千円(材料費は別)
申込み　中央公民館・又は、小日向武夫宅(三八―二三〇一)

◆英会話教室
気軽に・楽しく・愉快な英会話を学んでみませんか！
期日　毎週金曜日
午後七時から八時三十分
会場　中央公民館
募集人員　十名
会費　月額三千円(テキスト他)
指導　ジョー・セレルさん
申込み　八月末日までに小柳えり子宅(☎三八―三〇八七)か中央公民館へ

第二十回高齢者スポーツ大会 結果報告

〈団体の部〉
優勝　横水チーム
準優勝　矢代田チーム
三位　鎌倉天ヶ沢チーム
四位　新保チーム
五位　小須戸チーム
〈ジャンケン大会〉
優勝　相田セキさん(鎌倉)

アルミ缶収集状況

8月1日現在
262kg

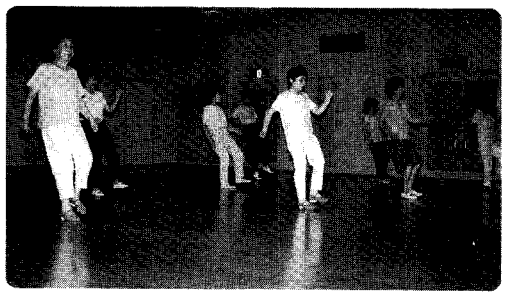
リストアップ 健康体操さわやかクラブ

昭和五十八年、社会体育指導員森田登さんを講師として健康体操トリム教室開設以来、はや十二年がたちました。当時の活動としては、ラジオ体操、ストレッチなどを週一回行い、実技講習、野外活動、それらを通じて仲間づくりの輪が拡がりました。

その後六十二年に「健康体操さわやかクラブ」と改称し、現在でもラジオ体操を基礎として、演歌やポップスなどに合わせたレクダンスで爽快な汗を流しております。

近年、とみに言われているように、高齢化社会が到来しつつあります。そうなると、自分の体を自分で責任をもって管理する事が必要となって来ます。ですが、焦って無理をするのではなく、あくまで楽しみながら適度な運動をする事によって、徐々に体力を高めていきたいものです。

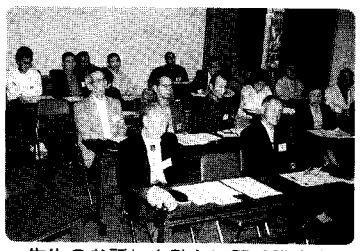
皆さんも私達と一緒に楽しく体力づくりをしてみませんか。尚、現在の会員数は十八名、毎週月曜日、七時三十分より九時三十分迄、三階ホールで活動しております。又、阿部富美子さん(レクダンス指導員)を定期的に講師に迎え、ご指導をいただいております。年会費は三千円です。



平成七年度「高等学校開放講座」開校

昨年に引き続き、今年も「高等学校開放講座」を開校いたします。大好評の講座です。皆さんも是非この機会に受講してみませんか。

●実施期間
自　平成七年九月十六日(土)
至　平成八年二月三日(土)
午後二時～四時(二時間)
●実施会場
中央公民館及び新津南高等学校
●募集人員
三十名(一般社会人)
●受講料
無料
●講師
新津南高等学校教諭　外
●申込み及び問い合わせ
中央公民館(三八―二三三四)
新津南高校　長江(三八―二九三)
●申込み締切
九月五日まで期限厳守


先生のお話しを熱心に聞く講座生
― 昨年度より ―

第一回　九月十六日(土)
「ヨーロッパの教育事情」
第二回　九月三十日(土)
「地震雲の研究」
第三回　十月七日(土)
「東アジアの新しい動向」
第四回　十月二十一日(土)
「新潟県産業界の新しい動き」
第五回　十一月四日(土)
「蒲原平野の地形」
第六回　十一月十八日(土)
「外国語の学び方」
第七回　十二月二日(土)
「海外での体験」
第八回　十二月十六日(土)
「世界情勢の新展開」
第九回　一月二十日(土)
「新潟県の歴史」
第十回　二月三日(土)
「人間の歴史」

文芸欄

川柳

丸い背に合った母への服えらび　保科志枝
二重丸もらって自信とり戻す　吉田みな
団欒(だんらん)は一家揃って丸い卓　長井武雄
肩書がとれて挨拶丸くなり　加藤米二

短歌

グラウンドの霧より出でて霧に入る野球の子　我妻清作
らの翔(かけ)り飛び交ふ
窓に見ゆる隣家の蛍きらぎらと眼にいたきまで暑き日の午後　吉田久次
差し交わす筋葉の奥に白玉の滝は夜来(よころ)の雨寄せて落つ　村山文子
亡き夫の形見の盆栽玄関に二十七回忌の法事営む　鈴木ハナ

俳句

鯉はねしあとの水輪や若葉光　花沢いせ子
野点する幕が張られて新樹光　須藤恵美子
袋掛くる人ゐてラジオの声張(は)れる　村山又雄
木道や池塘に流る夏の雲　安達キヨノ
会釈続く登り下りの夏の山　吉田ミナ
雷(いかづち)の川筋に入(い)る闇の音　吉田素糸
山容(さんよう)のやわらぐ四辺(しへん)夕蛙(ゆうかわず)　田中美根子
薔薇(ばら)剪るや妻の眼(まなざ)差しうけとめて　間野良遊